

2005年5月25日

せいりょう原稿

連想と空想

人は連想と空想の中に生きている。物質や状況が意味をもつのは、人が記号的連想と空想の作用をこころの中にもっているからである。そもそも存在は、記号の認識より生まれる。特に政治の世界では、このことは顕著である。「自由」「民主」これらは全て人間が創り出した抽象概念＝記号である。人間は記号構造の中に、価値や意味を創り出し、それを信じようとし、その価値体系の上に具体的な政治システムを創り出す。そして何時しか自らが創った政治システムの維持そのものが自己目的化し、それを可能にするイデオロギーを逆に考え出し、それを正当化する。ここに政治の陥穽がある。

シニフィエ（記号の所記）とシニフィアン（記号の能記）の関係性は、常に複数のパラメータにより変化する。そのことに気付き、しがらみに囚われずに新たな関係性を創造し得ることが、真の「改革」能力なのかもしれない。

衆議院議員 伊藤信太郎